

千代田の魅力再発見! 番町・麹町リサーチジャーニー
- 四番町図書館におけるビジネス支援について -

久保田夏実

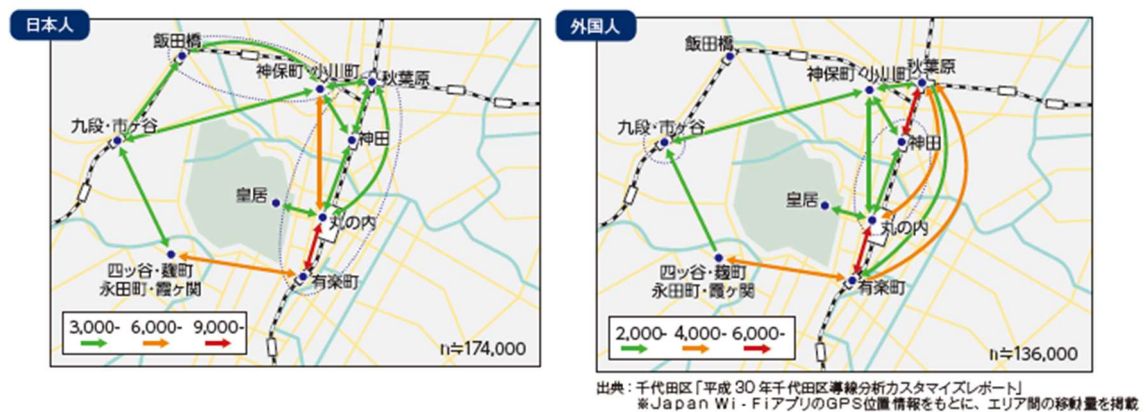
千代田区立四番町図書館

1. はじめに

1-1. 千代田区の現状と課題

千代田区は東京 23 区の中に位置し、東京 23 区内でも駅の数や道路面積の割合が相対的に多く、近接地からのアクセスが良好である。人口は約 6.7 万人と東京 23 区の中では一番少ないが、昼間人口はその約 13.5 倍の約 90 万人で東京 23 区中 2 番目に多く、日々多くの人が働き、行き交う大都市となっている^{1,2}。千代田区の人口は最も少なかった平成 7 年から増加傾向が続いており、将来推計では令和 27 (2045) 年まで増加傾向が続く見込みとなっている³。人口の増加、社会の変化や人の多様性が増したことによりコミュニティや界隈の個性の希薄化が課題の 1 つになっている。

昼間人口増加の一因である観光業は千代田区の重要な産業である。皇居周辺の歴史的な資源、千鳥ヶ淵の自然資源、帝国劇場や国立近代美術館等の文化的資源、秋葉原のポップカルチャー等、都市観光を彩る多様な観光資源が存在しており、こうした観光資源・集客施設が皇居を中心にコンパクトにまとまっているのが特徴でもあるが、目的のスポットにのみ滞在する観光客が多く、区内の回遊には至っておらず特徴を活かせていない現状がある³。



「千代田区産業振興基本計画 令和 5 年度 (2023 年度) ~ 令和 9 年度 (2027 年度)」より

1-2. 番町・麹町地域

四番町図書館のある番町・麹町地域は、平成 10 年からの 20 年間で人口が約 1.5 倍に増加し、千代田区の人口の 1/3 が居住している⁴住宅地域である。江戸時代は旗本屋敷、明治以降は官僚や政治家の屋敷街、外国公館が立地し、「番町文人通り」⁵があるように多くの文化人も居住し文化性の高い地域であった。

2.事業案「千代田の魅力再発見!番町麹町リサーチジャーニー」の提案

住民が地域理解を深め、自ら情報を発信することを事業の中心に据える。地域資源を活用するという観点からも、1-2 で述べたような背景がある番町・麹町から始めるのが良いと考える。図書館を拠点とした講座とまち歩きをセットにしたワークショップを開催する。ワークショップは地域資源を活用し、さらに図書館にある資料とネットの情報を結び付ける。年に3回開催し、その成果物として観光MAPを製作し、3年間かけ千代田区全体につなげることを目指す。

3.事業の目的と対象者

今回の事業の目的は以下の通りとする。

- ・住民が歴史や文化など地域を知ること、安心して地域で活動する
- ・住民がまちの語り手となり自ら情報を発信することで、地域の広報活動を強化し、観光振興につなげる
- ・情報を発信することで、住民に地域への愛着と帰属意識をもってもらう

千代田区の人口は増加傾向にあり、世帯数も増加している³。人口比率をみると15歳未満人口と生産年齢人口が増加していることから単身者ではなくファミリー層が増加していると考えられる。また住民は10年未満の短期居住者が5割弱で、「当分はここに住むつもり」と考えている住民が5割台半ばとなっている。その理由の多くは交通網が充実していることを挙げている⁶。居住年数からファミリー層が転入してきても子どもの独立、親も自身の仕事のキャリアが終わる頃に転出している可能性が高い。定住する、より長く生活の場としてもらうには、やはり地元のことを知ってもらい愛着を育んでもらうことが重要である。

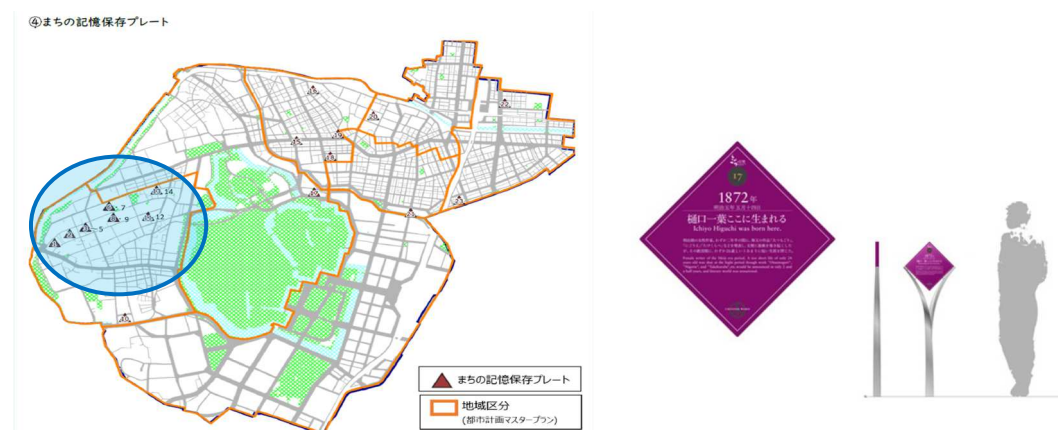
通常のセミナーや講演会に参加することは知識を得るという受動的なものだが、今回の事業は参加者が知り得た情報を発信する能動的なところがポイントである。自分の好きなこと、興味のある事に関する情報を求めることは当然のことであるが、その情報を発信することまで行うのはかなり積極的な人に限られるのではないかと考える。しかし知り得た情報を発表・共有したいと思う人は多いと考える。

これらのことから事業の対象とするのは、他地域より転入してきた人たち(中学生から50代くらいの世代)、この地域、その歴史・文化に興味のある人たちとする。

4.事業の具体的内容

既存の地域資源を活用したワークショップを開催する。地域資源として挙げるのは「まちの記憶保存プレート」⁷とWikipedia(ウィキペディア)⁸、図書館の所蔵資料と機能である。

「まちの記憶保存プレート」とは、地域からの応募をもとに千代田にまつわる事件や事象、人物など、歴史に残された足跡をプレートに置き換えるというもので、現在29基設置されており、その内半数近くが番町・麹町地域にある。



千代田区ホームページ千代田区行政基礎資料集(令和7年版)」より

Wikipedia は誰でも編集できるフリーなオンライン百科事典で、すでに番町・麴町地域に関連した多数の記事があがっている。図書館はワークショップの会場、それぞれのテーマに沿った資料の紹介、調査に必要な資料の選定、パソコンや wi-fi などの機材を提供する。まち歩きに関しては区内他館で神保町において定期的に⁹、特別展示に合わせての開催¹⁰など実績がある。複数の企業で構成された指定管理者の組織であるがノウハウを共有し今回の事業に取り入れたい。

ワークショップは講座とまち歩きをセットにしたもので3種類設定する。

① 番町・麴町 まちの記憶保存プレートをめぐる

番町文人通りを中心とした番町・麴町地域に設置されている「まちの記憶保存プレート」について学び、実際にプレートの設置場所を巡る。

② 番町・麴町 物語さんぽ

番町・麴町地域が登場する物語について話を聞き、実際に物語の描写と比較しながらまちを歩く。外部講師を招聘予定。

③ まちの情報を発信!ーウィキペディアに参加しようー

(ア) ウィキペディアの記事で出典がない箇所について、図書館の資料の中から記述箇所を探し出典として結びつける。

(イ) まち歩きと文献をもとにウィキペディアのページを編集する。

(ア)(イ)ともに講師には元 Wikipedia 日本語版管理者を招聘予定。(ア)ではインターネット上にある既存の記事を利用、(イ)では Wikipedia の新たな記事の作成を目指す。

住民が参加することで地域を知り、学んだことをもとにして情報を発信する。その成果物として観光 MAP を作り Wikipedia の情報を更新する。図書館はそれらの情報の信頼性を高めるために、図書館資料と参加者を結び付ける。特に③のワークショップに関してはネットの情報を扱うため正確性が重要になる。デジタル情報と図書館資料(アナログ)の情報を結び付けることで情報の信頼性を担保する。

ワークショップで作成した観光 MAP には地図情報だけでなくその内容に関連した資料、文献リストを QR コードにして掲載。観光協会の HP などネット上に掲載する場合は、図書館 HP や OPAC 相互リンクさせる。

連携先として千代田区文化振興課、地域振興部コミュニティ総務課、日比谷図書文化館文化財課、千代田区観光協会をあげる。地域資源の収集と整理、広報面での協力を得ることで情報の信頼性や継続性につなげる。

1 年目は番町・麴町に絞り、2 年目以降は他地域を取り上げたり、テーマで地域と地域を繋げたりすることで拡大して回遊性を持たせ、千代田区全体へと広げていく。

5.期待される効果

今回の事業で地域の交流と情報発信が地域のにぎわいを創出し、希薄化していたコミュニティに厚みを持たせ、さらに観光事業の促進と回遊性の高まりにより地域経済の消費に貢献して地域の課題の解消につながっていくことを期待したい。

また参加者、図書館へそれぞれ以下の効果を期待する。

5-1. 参加者

- ・地域を知り、共通のテーマで語り交流する機会を得ることで、地域への安心感が生まれ活動しやすくなる
- ・継続的にまち歩きを行うことで健康維持、地域にある歴史的資産・記憶の継承につながる
- ・学んだ情報をもとに情報発信をすることで、地域貢献をしていることを実感する

5-2. 図書館

- ・発信する情報と図書館の資料を結び付けることで情報の信頼性に担保をもたせる
- ・アナログ情報である図書館資料とデジタル情報が共存するものとしてアピールでき、改めてレファレンスサービスを押し出す
- ・地域資料の充実と利用の促進

6.おわりに

四番町図書館は建替え中で、新館移転という大きな変化を迎える。今のサービス・状況のままではよいのだろうかとの疑問に思い、何かきっかけがほしく今回ビジネス・ライブラリアン講習会を受講した。本講習会での講義を受け多くの学びがあり、自分が持っていない様々な視点に気づかされた。この講習会を受ける中で区民世論調査¹⁾を見たところ、図書館に関する設問はなかったが、「整備・充実すべき施設」の 4 番目に図書館があがっており、住民が注目していることがわかった。今回考察したビジネス支援サービスをそのまま実行に移すのは難しいかもしれないが、取り入れられる要素は少しでも早く取り入れ実行し、地域に提供していきたい。今後も様々な視点で地域の課題を見つけ、何ができるか、またそのために自分に何が必要か考えて業務にあたりたい。

